

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉に貢献すると言う目標をもとに地域の方とのつながりを大切にし役場の福祉課との連携を行っている お年寄りを敬うの理念を掲げて 外部の人や職員が常に目に触れるようにしている	理念の「お年寄りを敬う」が居間に大きく掲示され、来訪者誰もが目にすることが出来る。月1回の職員会議でも振り返り、理念に沿った支援であるのかどうか確認している。新規の職員にも管理者、職員全員で「こういう時にはこのように」などと声をかけをし、早期に一人前になるようアドバイスしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地元の活動に積極的に参加している 自治会に加入し区費の支払いをしている、一軒の家として回覧板が回り積極的に掃除や草取り等に参加している。地域交流会を開催し、ボランティアの方地域の方と交流を図り積極的に地域の行事に参加している	自治会に加入し区費を払い地域の掃除、草取りに参加している。回覧板で知り、地域の秋の文化祭に利用者、職員合作の立体的な「藤の花とバラ」を出展した。年に1～2回開催する地域交流会には40数名が参加し、フラダンス、舞踊などのボランティアが会を盛り上げている。近所から豆の鞆むき、選別などを頼まれ、お正月には煮豆でお返しが来るという。近くの農業高校の生徒が野菜や花卉の移動販売に玄関先に訪れ交流をしている。管理者は老人クラブの会議や草取りに参加し「お茶飲みに来てください」とお誘いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談や見学はいつでも受け付けており、また、心の病等の方の社会復帰の場としても応援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族組長区長民生員老人クラブの会長学校関係者役場職員等で構成され2か月に1回開催されている 昨年より参加者が増え地域の方の積極的な参加により意見交換や認知症の勉強を活発に	家族、区長、組長、民生委員、駐在所所長、中学校の先生、村福祉課職員と多彩な顔ぶれが出席し2ヶ月に1回開催されている。利用者状況、活動報告、防犯の話など双方向的な話し合いが行われている。会議の中で職員による認知症の寸劇も行われた。11月には運営推進会議を兼ねホームの臼と杵で餅つきを計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の代行申請を家族の依頼を受けて行っている。認定調査では情報を提供している	介護保険の代行申請を家族の依頼を受けて行っている。認定調査員の来訪時には本人の状態を家族に代わり伝えている。隣接する市のケアマネジャー会議が毎週あり、1年間の研修計画(認知症、倫理など)に沿って職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で拘束行為について理解を深め声掛け、傾聴で対応しているが、夜間一人対応時は、徘徊者の危険に対応できるように施錠を実施している	隣の市にある本社の会議が月2回あり、年間6回ある研修の中には身体拘束も含まれ、拘束や利用者の行動を制限をしないケアについて職員は十分理解している。利用者から朝起きると「これで帰る」、昼食後、「これで家へ帰ってくる」などの言葉が発せられると職員は一緒に外を回って気持ちを落ち着かせている。「無断外出マニュアル」も作成され、万が一に備えている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある毎に職員会議等で話し、虐待防止に徹底的に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用できるように 外部での研修で学んでいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問のある方に対しては納得がいくように十分な説明を行い 署名 捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満等が伝えやすい様に声掛けしている。苦情・相談窓口やご意見箱を設置している。	家族の来訪は毎日、1週間に1回、遠方の方の月1回など、それぞれの都合で異なっている。来訪時には利用者の状況報告や家族の要望を聞くようにしている。家族会が食事を兼ねて5月に開かれている。今後、小規模な家族会を年数回開きたいという意向がある。誕生日にケーキ持参で家族が来訪したり、サプライズで家族が踊りに来たりしている。ホームの便りには利用者の率直な気持ちも載せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議や月2回の定例会議等で職員の意見、要望を聞いている	本社の定例会議が月2回あり、日勤の職員が交替で出席している。ホームの会議も月1回全員参加で行われている。毎日朝30分かけて連絡ノート5冊(献立、バイタル、夜間状況等)を使い夜勤者から引継ぎをしている。管理者と各職員が都合のつく時に話し合い意思疎通を図っている。年に1回、2班に分かれ、本社の職員と一緒に1泊2日の社員旅行に出掛けリフレッシュを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や、講習会への参加援助や勤務時間の希望を受け入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加させている 会社独自の研修の機会を年に6回行っている		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の主催する研修会を通じて交流を深め質の向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族と本人に面談し、希望や不安な事を聞き出し受け止めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の困っている事、不安または希望をじっくり伺い、それらの解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その家族により必要としている事は異なるので、よく話し合いケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴やレクグループワークで楽しみ、昼食等一緒に楽しんだり、畑で作った作物などの収穫祭などを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所して頂き一緒に食事をしたりお茶を飲んだりして共に楽しい時間を過ごして頂き、日ごろに生活状況等お伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真を見ながら、その頃の思い出話を聞いたり、入居者の教え子が訪問してくれたりして友好を深めている。また馴染みの床屋さんの訪問して頂いている。来年の自分にお手紙を書いていた頂いている	かつて先生だった利用者には教え子が来訪している。利用前に通っていた理髪店の店主が来訪し、カットしてくれている。誕生日に子供が来訪し、食事や泊まりに出掛ける利用者もいる。知人に電話をしたいとの希望はあるが、相手の立場も考え手紙を書くことにし、お手伝いもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を大切にする支援		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所した方の家族も野菜を届けてくれたり 退所された家族も野菜など届けてくれる こちらのイベントや外出時も一緒に出掛けられる様にお誘いをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活ができる様に一人一人の思いや希望に感心を持ち日常生活の中で顔色や仕草から、傾聴、会話、外出、買い物等を積極的に誘っている	大半の利用者は自分の思いを表出できる。1年に1回、「来年の自分への手紙」を一人ひとりが書き、「元氣になりたい」、「若くなりたい」、「自分の家にいたい」などの思いが記されている。また、老人クラブ会長と利用者の話から、ホーム便りに利用者一人ひとりの思いを記載し家族の元へと届けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から、出来るだけ詳しく聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状態を把握し、記録として残しながら、改善される必要があるものについて その日のうちに 話し合いの機会を設けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始時に利用者や家族の希望を聞き作成している。利用者の一人一人の生活記録を毎日つけ、職員会議で検討の場を設けケアプランに反映している。利用者の状況変化によっては随時見直しが行われている	計画作成担当者は本人・家族から意向や希望を聞き、本人の状況や利用前の情報等を参考にアセスメントしている。職員との話し合いを持ち、目標、内容を設定し介護計画を作成している。作成された計画書は本人、家族に説明し承諾を得ている。毎日実施状況を確認しており、変化がなければ6ヶ月毎に見直しが行われる。状況変化によっては随時、見直しが行われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残しケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院や入院時の手続き、訪問介護や訪問歯科依頼など、その時々ニーズに対応している。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の警察署、消防署、自治会の消防訓練、ボランティアとのレクリエーションや聞き役とうど衆などとの交わりを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の要望で掛かり付け医の変更が行われている、協力医による往診が月2回 訪問看護は週3回あり、情報の共有化と適切な対応を取ることが出来ている、協力医以外の受信は家族の付添でお願いしているが都合がつかない場合は管理者が付添いしている事もある	ホーム利用開始時、本人や家族の要望で協力医に変更している。協力医による往診が月2回あり、訪問看護師も週3回来訪し健康状態を把握したり相談にのっている。開設から今日まで風邪をひかないで過ごすことが出来たという。専門科目の受診については家族に連絡し、都合がつかない場合には職員が対応している。歯科医には必要時に往診していただけるが、道具が揃わない場合には医院にお連れしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱や褥瘡、傷・便秘・痛み等を看護師に伝え、看護師から医師への報告により薬処方、点滴など適切な処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の協力医の先生や看護師が中心となり病院側との連携・情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護についての同意書を交わし家族と医師職員の話し合いで行う 家族の希望で療養型の施設や特養 家庭等に移られた 家族との間で終末期について話し合いを行い早い時期から突然な事態に対応できるようにしている	重度化した場合の看取り指針が作成されている。ホームを利用する際に「看取り介護についての同意書」が交わされ家族に説明している。昨年9月看取りが行われた。緊急で入院され3週間で退院されたが、入院時も医療的処置(胃ろう等)はしてほしくないという家族の意志の固さを感じたという。利用者も全員でお見送りし、玄関に塩をまいたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備、研修の実施をしている 担当医と連絡を密に取り看護師との連携によって急変時の電話にて指示を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間一人対応の通報訓練・避難訓練・消火訓練等年間約5回ほど行っている	9月1日の防災の日には地域との合同避難訓練が行われた。地域から4人程参加していただき、利用者もお手製の名前入りのたすきをかけて避難している。着物生地を利用した防空頭巾も製作中である。夜間を想定したり、年5回のうち4回、消防署の立会いで行われている。スプリンクラー、消火器等の設備も整っており、備蓄もある。AEDも設置されており11月中に職員の訓練が行われるとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ時には、十分な配慮を心掛け、また話し方や お世話させていただくときにも同じように気配りをしている	理念の「お年寄りを敬う」に沿って利用者の尊厳を重んじつつ日頃の暮らしの中で実践している。苗字が同じ方があるので全員名前でお呼びしている。会話がなく、食事をするとすぐに居室に戻っていた利用者について全職員で検討し、席替えをしたことにより話をするようになり、居間で過ごす時間も長くなり、家族からも「すごく良くなった」と感謝されている。居室の入り口にはカーテンがありドアを開放した際には目隠しとなり細かい配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・傾聴により、本人の思い・気持ちを知る機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりに縛ることなく個人のペースに合わせた生活をしていただくように、声掛けを頻繁にして木森の把握に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人のペースに合わせた生活をしていただくように、声掛けなどにより対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は利用者さんと一緒に作ったり 食事後の片づけも一緒に行うことで自分にも何か役に立つことが有るのだと自信が持てる畑の作物の管理も一緒に行うことで収穫の楽しみも持っていたい {o}やつは手作りの物に拘っている	日によって口までスプーンを持っていくことが出来なかったり、食べる事を忘れてしまう方もいる。刻み食対応の方も半数ほどいる。献立は頂き物や畑で収穫された野菜、利用者の「うまい物が食べたい」との言葉にあわせ決めている。利用者もそれぞれの力量で野菜の皮むき、食器洗いなどお手伝いしている。「地元のお米は美味しい」と訪問時、山盛りの御飯を美味しく食べる利用者を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の必要・要望に応えられる様に職員は工夫を凝らしている 晩酌したい人には希望に応えている 食べたいものがある人には一緒に買い物に行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人は習慣的に行っている 航空ケアを自分でできない人にはスタッフが支援している		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が全く無く自分で歩けない人にはオムツ対応で行っているが歩ける方には時間を決めてトイレ対応にしている	おむつ、リハビリパンツ、布パンツを使用し、時間でトイレ誘導もしている。自主的にトイレに行く方も半数はいるが、ズボンが途中でとまっているので後ろから上げる支援もしている。夜間のみポータブルを使用する方もいる。失禁の場合、「恥ずかしい、いやだ」という方もいるが職員が「大丈夫、大丈夫」と繰り返し、トイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便の記録を基に排泄のチェックをしている 便秘の方が多く薬で対応しているが食べ物も野菜中心の食事便秘対策を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は全く決めずに利用者さんの希望を一番に考えて入浴している。長年の生活習慣で入浴を週に一回程度の方は一応声掛けをしながら決めて無理強いをすることが無い様に気配りをしている昔ながらの菖蒲湯、柚子湯等は大変好評得ている	入浴日は決めていないので毎日入りたい方は毎日入浴できるが週2~3回の利用者が多い。全く歩けない方の場合には二人介助で支援している。入浴を拒否する方には曜日を変えるなどしている。菖蒲湯、柚子湯は昔から行っている習わしとして好評であるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて頂いているが、寂しいと言われる方は自分たちで決めて一緒にベッドに寝たりホールで皆の顔を見ながら寝ることもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態が変わり薬が変わった時には 説明し納得の上で服薬して頂いている 薬は食事が終わった方から渡して服薬して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や雑巾縫い新聞たたみや洗濯物たたみ調理の下準備や買い物草取り等出来ることは、その方の能力に合わせた役割で、楽しんで作業など行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節事のドライブで四季の観賞を楽しんでいる 花見 は桜 バラ 蓮 ダリヤ園 紅葉 近くの散歩 外食 地域の交流 お祭り 花火 等楽しんでいる 今年生まれ初めてと言われる方が多かったですが喫茶店に行き大変喜んでおられた	天気が良ければ近くの保健センターや中学校まで車椅子の方も含めて少人数に分かれ散歩している。村の風景が一望に見渡せる玄関先でひなたぼっこをしたり、芝生にゴザを敷いて食事をしたりしている。春の花見、菜の花公園、バラやハスの花の名所などへ1ヶ月に1度は外出している。その場で食べるアイスクリームに歓声をあげたり、食事処で好きな物を選んだり、生まれ始めて初めての喫茶店でお茶を楽しむこともあった。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は現在お預かりしてはませんが 希望で欲しいものを買いたい時は一緒に行って買っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要件をお聞きしてこちら側で変わってお伝えすることもある 手紙やハガキは一緒に協力して書けるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな田んぼの中に位置している 周りは山が美しい四季を見せてくれています ホールには季節感を感じることでできる手作りのカレンダーが毎月作成され飾ってある 外出時の写真が飾られている	居間、食堂を中心に鍵の手に居室が配置されている。居間には利用者と職員の手作りの作品が沢山飾られている。ペランダには干し柿も干されていた。壁にはお祭り、流しそうめん、避難訓練などの行事の写真が飾られている。歩行訓練用の平行のバーも置かれ、誰でも気軽に訓練が出来る。蓄熱暖房、エアコン、ファンヒーター併用で冬を迎える。初冬の暖かな日射しで室内は暖かく袖なしで食器洗いをする利用者も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合った方同士個人の居室を訪れ話し込んでおられる 居室、希望でホールで気楽に休めるよう工夫もしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	子供の写真や 孫 兄弟の写真など飾ったり信心をしている宗教の写真を飾ったり 職員の手作りの 吊るし雑を置かれたりと心穏やかに過ごせるように配慮している	居室にはベットと下にキャスター付きの大きなロッカーが置かれている。そのロッカーは自分の思う場所に移動させることができ、収納スペースも十分にあるので居室はすっきり整理整頓されていた。部屋替えにもそのまま移動できる。棚にお母さんの写真が置かれ、壁には誕生日のお祝いの色紙が飾られている居室も見ることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり等で、自立に向けて工夫をしている		